

平成 27 年度ナショナルバイオリソースプロジェクト 成果報告書（公開）

補助事業 代表機関管理者 (所属機関・氏名)	広島大学 理学研究科附属植物遺伝子保管実験施設 教授・施設長 草場 信
補助事業課題名	広義キク属リソースの収集・保存・提供

1. 補助事業の目的

多様な広義キク属植物およびその特徴を分子遺伝学的に解析するためのリソースの収集・保存・提供を通して、ライフサイエンス研究の発展に貢献する。

2. 補助事業の概要

NBRP 第 1 期、第 2 期では主に国内外の野生種の収集・保存・提供を行ってきた。第 3 期では、第 1 期、第 2 期で収集した野生種コレクションをさらに充実させるとともにキク属の分子遺伝学的研究展開の基盤を整備するため、①リソースの収集、②収集した系統の保存、③リソースの提供、④リソースのバックアップ、⑤運営委員会の開催、⑥データベースの構築、⑦事業の総合的推進を行う。

3. 補助事業の成果（平成 27 年度）

① リソースの収集

野生ギク系統と分子遺伝学解析のための系統等を併せて 201 系統収集した。DNA クローンについては 100000 クローン収集した。いずれも目標の 200 系統、20000 クローンを達成した。

② リソースの保存

野生ギク系統と分子遺伝学解析のための系統等を加え、全体として 5617 系統の保存数となった。現在、本リソースでは保存の効率化を進めているが、これは目標の 6000 系統よりも効率化が進んでいると言え、保存数は順調に推移している。DNA クローン数は 100000 クローンの保存となり、目標の 60000 クローンを達成している。

③ リソースの提供

野生ギク保存系統分子遺伝学解析のための系統等から 395 系統を提供した。これは目標の 120 系統を大きく上回る。

④ リソースのバックアップ

富山県中央植物園において、本リソースのコアとなる株保存 414 系統および培養保存 76 系統のバックアップ保存を行った。

⑤ 運営委員会の開催

平成 27 年 12 月 8 日に広島大学において運営委員会を開催し、平成 26 年度および 27 年度の事業報告を行うとともに、今後の事業計画に関連して議論を行った。

⑥ データベースの構築

情報センターの助力を得て、NBRP 広義キク属系統データベースの充実などを含めて、HP の一新を図っている。

⑦ 事業の総合的推進（コミュニティとの意見調整、データベースの周知、ニュースレターの作成）

園芸学会・国際除虫菊シンポジウムでの発表・分子生物学会での展示等を通して特にキクタニギク標準系統の開発を中心に宣伝活動を行った。また、キク標準系統の全ゲノムシーケンスのコンソーシアムや NBRP 運営委員会などを通してコミュニティと意見調整を行った。